

(1) 活動内容

3/30より4/10まで災害看護支援機構は日本財団の後援でハイチ支援を行った。メンバーは7人であるが、上田はその一員として4/6まで参加した。3/30にNYで1泊、3/31午後に現地入りした。首都ポルトープランスの建物全壊率は約6割、震源地のレオガンは8割であった。1/12地震(M=7.0)が起こって、2ヶ月半以上経つのに瓦礫の処理は十分には進んでいない。道路上の瓦礫は取り除かれているが、崩壊した建物はそのままのようだ。国会議事堂はじめ政府機関の建物も大半は壊れており、行政機能も著しく低下している。公園や校庭など空いた土地にはテントがぎっしり張られており、道路の中央分離帯にまでテントやバラックが建てられていた。道端には露天の店が連なっており、大勢の人で賑わっていた。人々の表情は一般的には明るく、たくましく生きている姿を見ることが出来た。栄養失調の人はほとんど見られなかったので、最低レベルの食料供給は維持できているように思われた。またハイチには激しい政争に対し2004年より国連軍が駐留しているが、地震後の治安維持の大きな力となっているようだ。

メンバーの1人、村井さんはCODE(海外災害援助市民センター)の理事であるが、このCODEの海外メンバー(メキシコ人)が先に現地入りし適切な支援場所を調査していた。彼によるとNGOの支援は首都に集中しており周辺は手薄となっており、医療支援は首都からレオガンに進む途中にあるマリアニの小学校の校庭を避難場所とするキャンプ地が適当とされた。ここには現在601世帯、2,763人が暮らす。海外NGOの診療はこれまで数回しかなかった。4月1日に現地のリーダーと懇談し、4月2日と3日の2日間支援を行うことになった。

ハイチ人の青年医師(1人)と看護師(3人)の協力を得ることができたが、診察はハイチの医師に任せた。上田は薬調整を担当することとした。その理由は現地語・フランス語の通訳が1人しかいないこと(通訳は少なくとも診察と薬渡しに必要)と、小児の薬は持参しなかったため大人用を粉砕して作成する必要があったからである。1日目の診察数は53人であったが、2日目は近隣の住民も受診したため100人、計153人を数えた。多い病態は下痢、かぜ、胃痛、発疹、婦人科感染症(トリコモナス)などであった。乳幼児の受診も多かった。高血圧の人もいた。COPD患者が1人いた。2日目には高熱・貧血の患者(19歳女性)さんが受診された。ハイチの青年医師はマラリアと診断、クロロキンを開始するために薬局へ紹介した。住民から非常に感謝され、次はいつ来るのかと聞かれた。

我々は医療支援だけでなく、2ヶ所の孤児院を訪問した。4月1日にレガンドにある孤児院を訪問した。キリスト教教会が孤児院と小学校を運営している。地震で教会と小学校は全壊、孤児院の子供も30人のうち2人が亡くなり2人が大けがをした。神父さんの子供も1人なくなった。食事は黒豆をまぜた米ごはんが主なメニュー(1日1食)である。おかず

はない。ここで大塚製薬より寄付していただいたカロリーメイト 1 箱を贈ったが、たいへんに喜ばれた。

4/4 午後現地をたち、NY で 1 泊し帰途についた。

## (2) 熱帯の発展途上国における医療支援

ハイチは熱帯地域の発展途上国であるが、当然のことながら日本での支援と比べると著しい相違がある。

- (a) 発展途上国における医療者の条件は、(1) 専門分野だけではないオールラウンドの力量が求められる。(2) 検査ができないため臨床症状で診断が求められる。(3) 保険がないため大半の人は医療を受けられない。低コストの治療方法を提示すること。
- (b) 熱帯地域で対応を求められる疾患として、(1) 感染症のウエイトが高い。中でもマラリア、チフス、寄生虫（回虫など）、女性の膣炎（トリコモナス）への対処が求められる。下痢（腸管感染症）が多い。かぜも多い。(2) ストレス疾患としては上腹部痛の訴えが多い。胃炎あるいは胃潰瘍に対応した状態と考えられる。あるいは不衛生によるのかもしれない。日本でのストレス性の訴えは頭痛、不眠、倦怠感が代表的で胃痛は多くないが、これらの訴えは現地では少なかったようだ。(3) 皮膚疾患が多い。(4) 高血圧の人が増えているようだ。発展途上国では成人肥満の急増を背景として高血圧、糖尿病が増えていると言われる。
- (c) 被災地支援では通訳と現地スタッフの協力が不可欠である。熱帯地域特有の疾患の診断と制限的な医療状況への適応が求められる。現地スタッフの存在なしには医療支援は不可能といえよう。今回、我々はハイチ人青年医師と看護師の参加を得ることができたため、現地の医療事情にフィットした支援ができた。また外部医療スタッフが主体となる支援ではなく、現地スタッフを支える形での支援ができた。

## (3) ハイチの震災復興

震災復興の道のは険しいと思われる。その理由であるが、(1) もともと経済基盤が脆弱であること。安い輸入食料品におされて農業生産が低下している。観光業も遅れている。

(2) 森林がほとんど伐採されており自然災害の被害が増幅されている。(3) 繰り返す政変により国家建設が非常に遅れてきた。最も大きな原因は政治の乱れだろう。国連がリードして現地政府の自立性を高めつつ国際的な支援を入れていくことになると思われる。

支援のため 8 日間病院をあけることになり患者さん職員にたいへんに迷惑をかけました。暖かく送り出していただき感謝します。また医療生協には薬品などの支援をいただきありがとうございました。